Panasonic

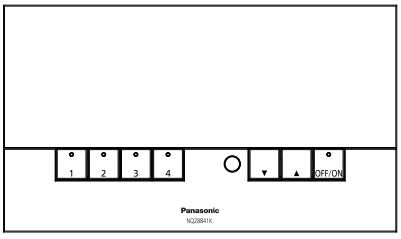
施工説明書

ライトマネージャーFx　記憶式

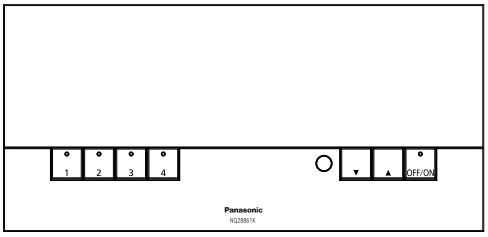
品番：NQ28841K
NQ28861K

本器の取りつけには電気工事士の資格が必要です。必ず専門業者の方が施工してください。

NQ28841K



NQ28861K



もくじ

安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
施工上に関するお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・　2
各部のなまえと付属部品・・・・・・・・・・・・・・・・　2
適合負荷とシステム構成・・・・・・・・・・・・・・・・　3
配線方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
施工前のご確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
施工方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
教えて！Q&A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
故障かな？と思ったら・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

工事店様へのお願い

正しく施工するために必ずお読みください。
施工後、必ずお客様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。

安全上のご注意　（必ずお守りください）

人への危害、財産への損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

⚠警告

■ 本体の分解や改造、および修理をしない。
　火災、感電のおそれがあります。

■ 屋外、湿気が多い場所、振動のある場所、可燃性のガスが発生する場所に取付けない。
　火災、感電のおそれがあります。

■ 施工は施工説明書にしたがい確実におこなう。
　火災、感電のおそれがあります。

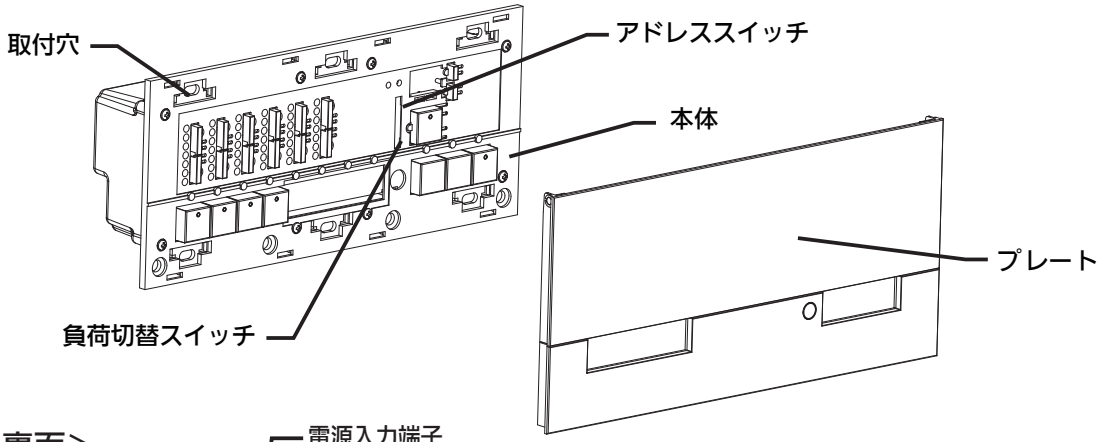
■ 適合負荷を最大負荷容量または最大接続台数以下で使用する。
　火災、故障のおそれがあります。

■ 説明書に記載された電線を使用し、被覆は本体裏のストリップゲージに合わせて剥き、電線穴に奥まで差し込む。
　指定外電線の使用や不十分な結線および電線の先が曲がっている場合は
　異常発熱、火災のおそれがあります。

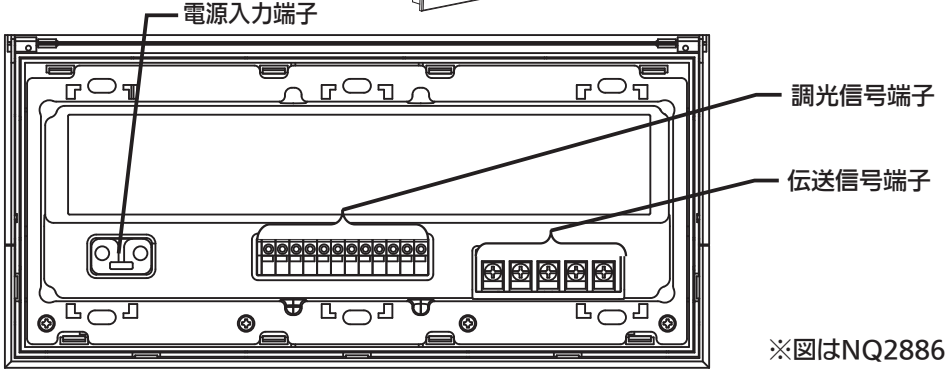
施工上のご注意

○ 本器は単相100V専用です。
○ 調光信号線の1回路の総配線長は100m以下、伝送信号線の総配線長は50m以下としてください。
○ 誤動作の原因となるため、盤内に設置する場合は屋内かつ本器専用にしてください。
○ 本器は当社信号線式調光器具専用のコントローラです。他社製の照明器具と接続することはできません。
○ 調光特性が異なる為、異なる起動方式の照明器具を同一回路に接続しないでください。
○ 本器をシーンマネージャーや調光装置（調光盤）、ライトマネージャーS・L　及び、リビングライコンと接続して使用することはできません。
○ システムアップする場合は適合する子器や信号変換インターフェース、明るさセンサーをお使いください。
○ 取付には4回路タイプはJIS4コ用金属製スイッチボックスを、6回路タイプはJIS5コ用金属製スイッチボックスを使用してください。

各部のなまえと付属部品　施工する前にまず付属部品をご確認ください



＜裏面＞



本体付属品

取扱説明書
施工説明書
シールセット

※図はNQ28861Kです。

適合負荷とシステム構成

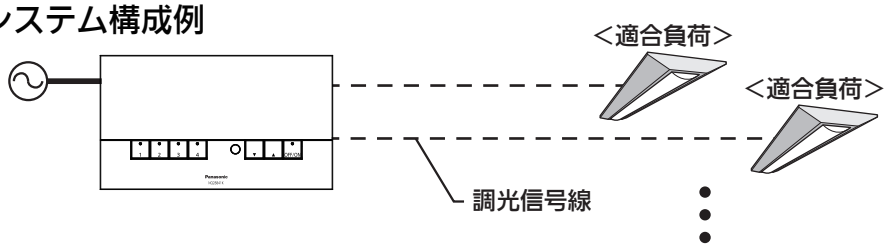
＜適合負荷＞

接続台数は全回路合計 36 台までです。（ただし、断熱施工時は 25 台までです。）

負荷切替スイッチ	当社製連続調光型インバータ器具	当社製信号線式連続調光型 LED 器具
Hf モード	起動方式：PX、PD、EYH、PX、WX※1	起動方式：LZ、LX※1、LY※1、LH※1、LT、LA、LJ、LI
PC モード	起動方式：EDH※2	起動方式：LD、LV

※1　初期照度補正機能により調光操作器のレベル設定部（ボタン）で調光できる範囲が狭くなります。
　　レベル設定部（ボタン）の下限・上限域では操作しても明るさは変わりません。
※2　1 台あたり負荷 2 台分として接続台数を計算してください。

・システム構成例



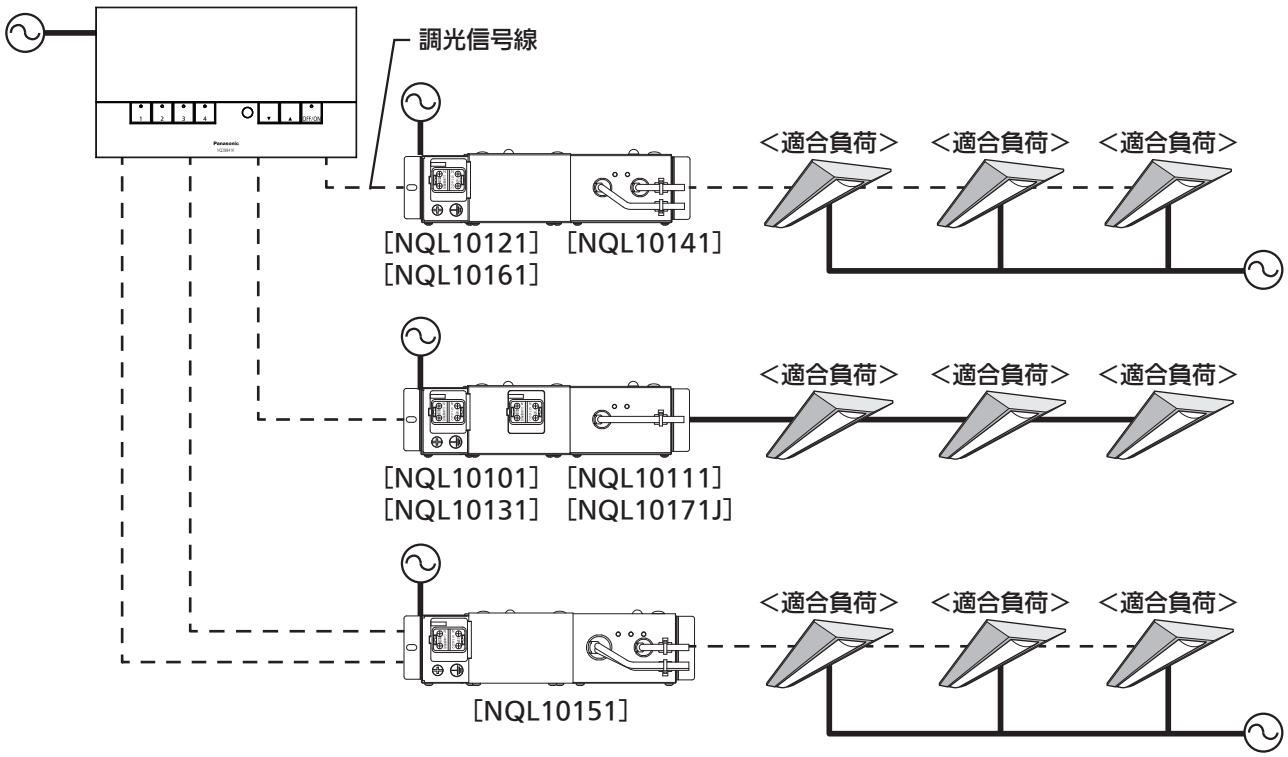
＜信号変換インターフェース＞

信号変換インターフェースを接続すると接続台数を増やしたり、さまざまな照明器具を接続することができます。

適合インターフェース	信号変換インターフェース・LED 電球用（NQL10101） 信号変換インターフェース・LED 用（NQL10111） 信号変換インターフェース・信号線式 LED 用（NQL10121） 信号変換インターフェース・ON/OFF 用（NQL10131） 信号変換インターフェース・デジタル調光用（NQL10141） 信号変換インターフェース・アレンジ調色用（NQL10151） 信号変換インターフェース・信号線式 LED（LR）用（NQL10161） 信号変換インターフェース・逆位相タイプ（NQL10171J）

・信号変換インターフェースは 1 台あたり負荷 2 台分として接続台数を計算してください。
（ただし、NQL10151 は負荷 4 台分として接続台数を計算してください。）
・負荷切替スイッチは PC モードにしてください。ただし、信号変換インターフェース・信号線式 LED 用は接続する負荷に応じて負荷切替スイッチを設定してください。
・信号変換インターフェース・アレンジ調色用は調光用と調色用に 2 本の信号線を接続する必要があります。
・信号変換インターフェースの適合負荷はそれぞれの取扱説明書などをご参考ください。

・システム構成例　※信号変換インターフェースを複数接続される場合は、調光ボックスの使用をお勧めします。



＜明るさセンサー機器＞

下記の明るさセンサー機器と組み合わせることで、明るさ制御することができます。

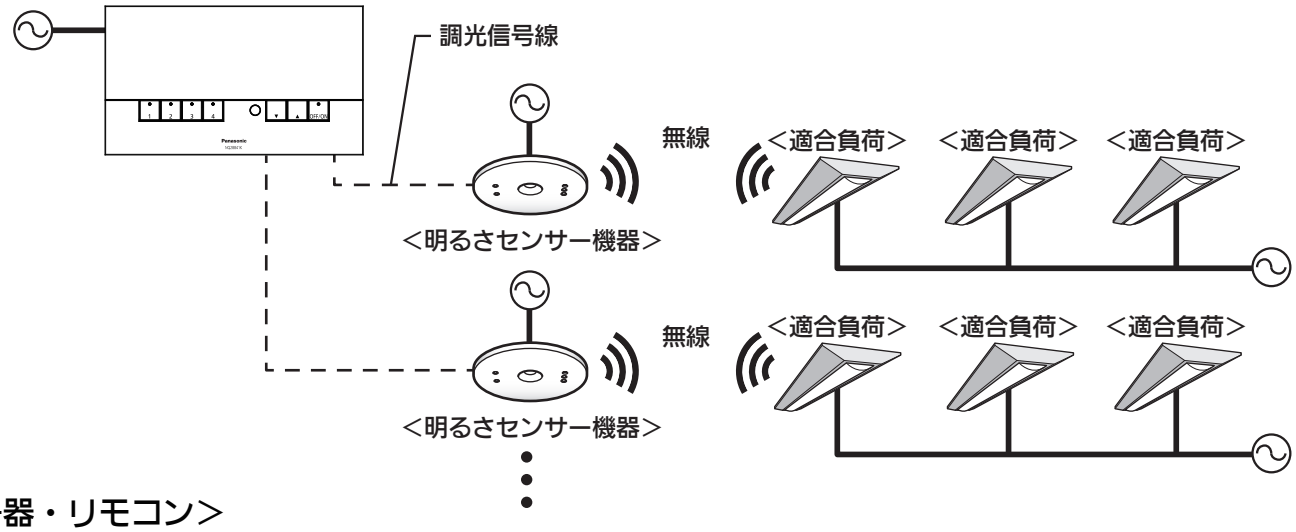
負荷切替スイッチ	PiPit+ セパレートセルコン A タイプ（埋込）	PiPit+ セパレートセルコン A タイプ（直付）
Hf モード	NQ23171Z	NQ23185K
PC モード	NQ23171K	NQ23185

- 明るさセンサーは 1 台あたり負荷 2 台分として接続台数を計算してください。
- 負荷切替スイッチは上記表の通りにしてください。
- 明るさセンサーの適合負荷はそれぞれの取扱説明書などをご参考ください。
- 昼光利用などの明るさセンサーによる明るさ制御を行う場合は、センサーモードに設定してください。（設定方法は取扱説明書をご参照ください。）
- 信号変換インターフェースからは明るさセンサーへ接続できません。（明るさ制御ができません。）

注 明るさセンサーは無線で照明器具を制御するため、照明器具の反応が遅れたり、ばらついたりします。
下記の操作およびシステム構成においては、発生しやすいのでご注意ください。
- 消灯⇔点灯が組み込まれたシーン操作や OFF/ON ボタン操作
- 調光ボタン、マスター調光ボタンによる連続操作
- 短いフェード時間でのシーン切替（フェード時間は長めに設定することを推奨します。）
- 無線器具と有線器具を各回路ごとに接続している場合

また、同時に電源を ON すると無線で制御している照明器具は一瞬 100%点灯することがあります。

・システム構成例



＜子器・リモコン＞

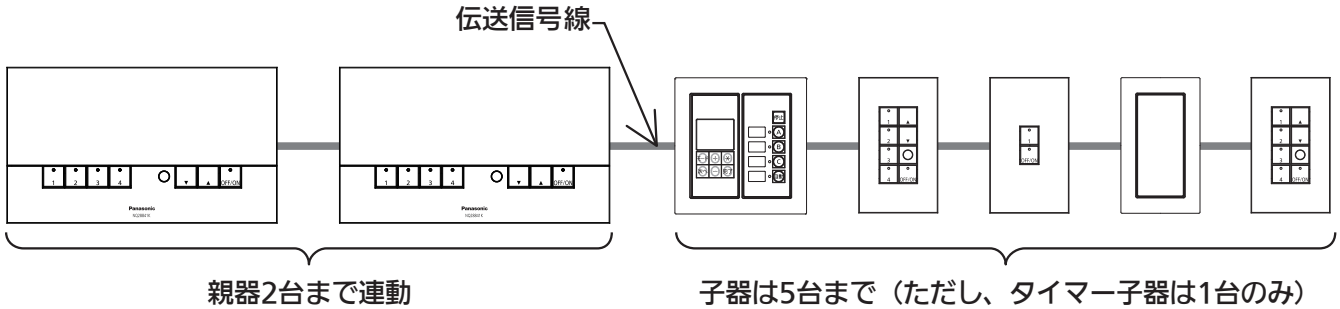
子器を接続すると多箇所での制御やタイマー制御などシステムアップすることができます。

適合子器・リモコン	タイマー子器（NK28891）、接点入力子器（NK28892）、 2 ボタン子器（NK28802）、シーン選択子器（NK28814）、 パーティション子器（NK28800）、ワイヤレスリモコン（NK28658）

「子器や親器を複数台接続した場合」

子器を増設することでシステムアップすることができます。子器は最大合計5台まで接続できます。
（ただし、タイマー子器は1台のみです。）
また、親器を2台接続すれば「シーン再生」、「全消灯」の操作を連動することができます。

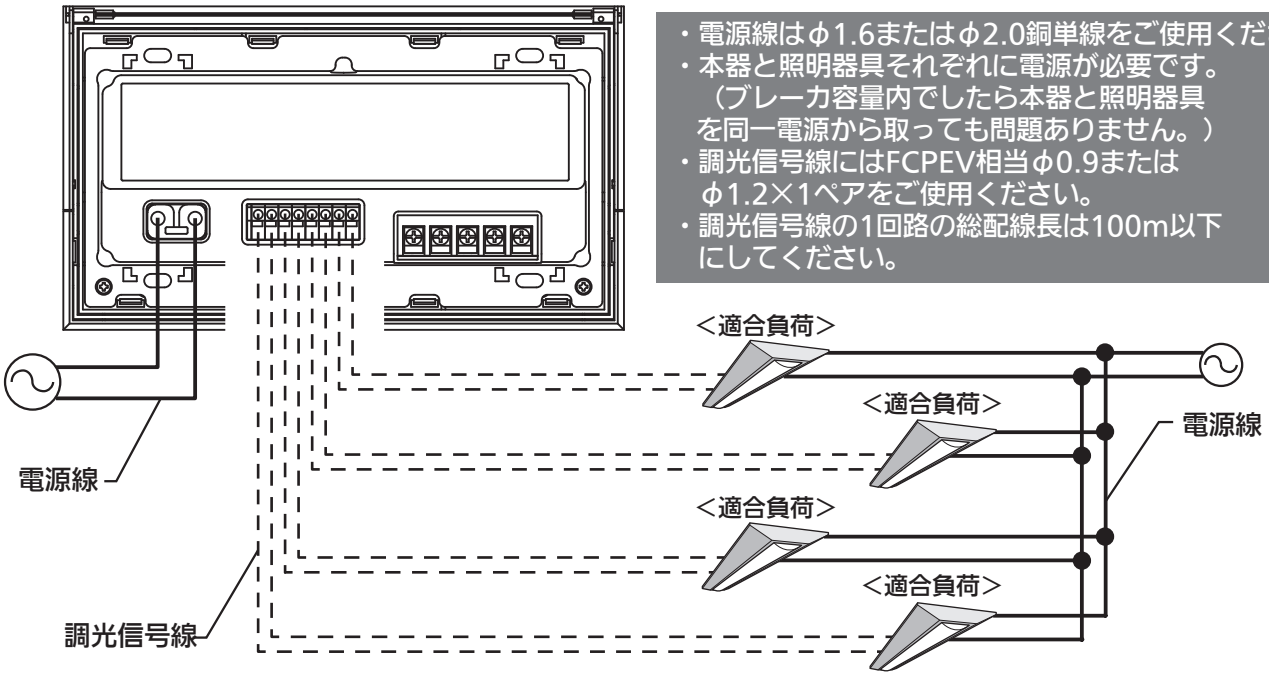
注 各回路の調光操作は連動しませんので、各親器でシーンを設定してください。



4 回路と 6 回路の親器を組合せて 8、10、12 回路を同一シーン設定できます。

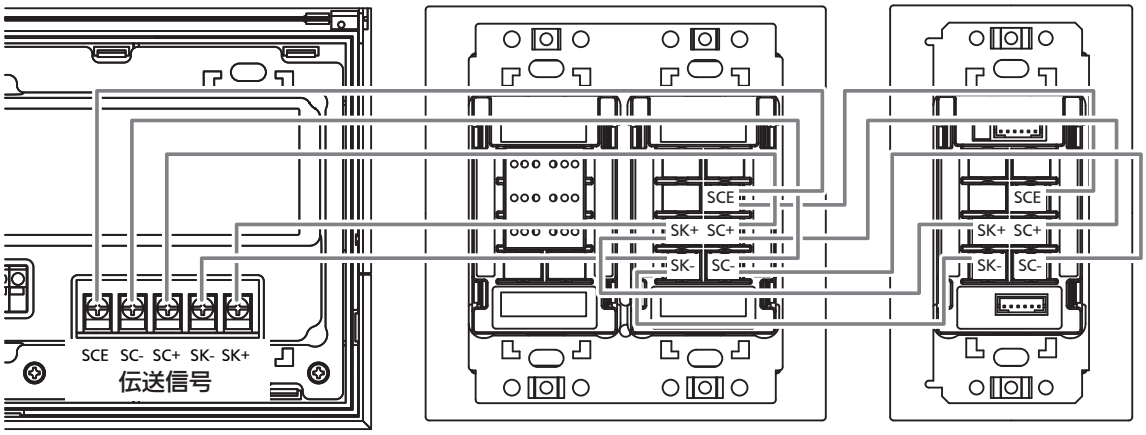
配線方法

＜照明器具との配線＞

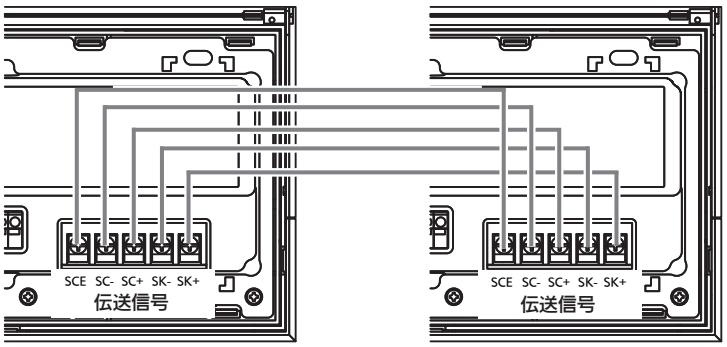


・電源線はφ1.6またはφ2.0銅単線をご使用ください。
・本器と照明器具それぞれに電源が必要です。
（ブレーカ容量内でしたら本器と照明器具を同一電源から取っても問題ありません。）
・調光信号線にはFCPEV相当φ0.9または φ1.2×1ペアをご使用ください。
・調光信号線の1回路の総配線長は100m以下にしてください。

＜子器との配線＞



＜親器連動の配線＞

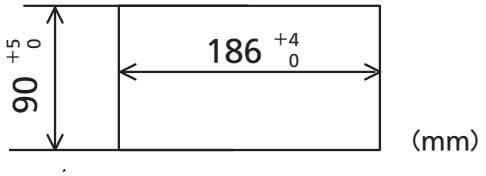


・伝送信号線にはFCPEV相当φ0.9またはφ1.2×2ペアをご使用ください。
・伝送信号線の総配線長は50m以下にしてください。
・伝送信号線は1台づつ送り配線（一筆書き配線）で接続してください。
（途中で分岐して接続することはできません。）
・親器は2台まで、子器は5台まで（タイマー子器は1台）接続可能です。
・同じ端子記号同士を接続してください。

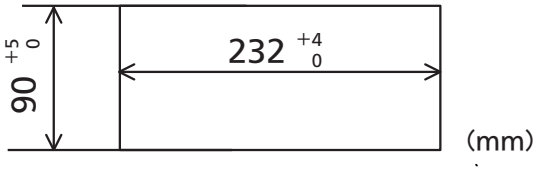
施工前のご確認

■ 取付には4回路用はJIS4コ用金属製スイッチボックス、6回路用はJIS5コ用金属製スイッチボックスをご使用ください。はさみ金具は使用できません。
■ 開口穴は下記の寸法で空けてください。

4回路：NQ28841K



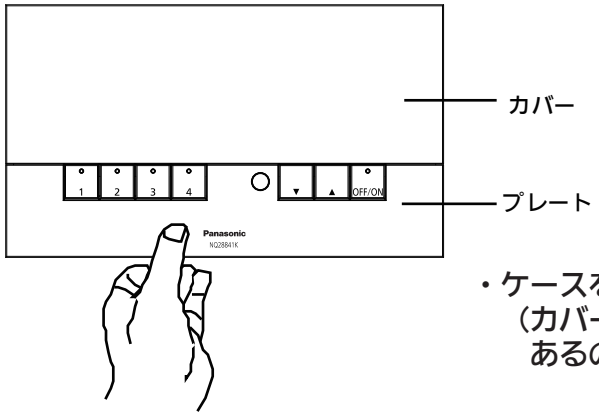
6回路：NQ28861K



■ カバーは上に開きますので本器の上に120mm以上のスペースを確保してください。
■ 連接取付はできません。並べる場合は30mm以上間隔をあけてください。

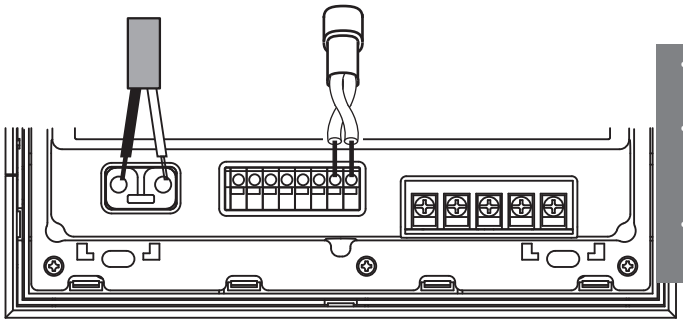
施工方法

1 カバーを外す



・ケースを持ち、化粧カバーの下部を手前に引っ張ると外れます。
（カバーを開いて引っ張るとヒンジ部が壊れる場合があるので必ず下部を持って外してください。）

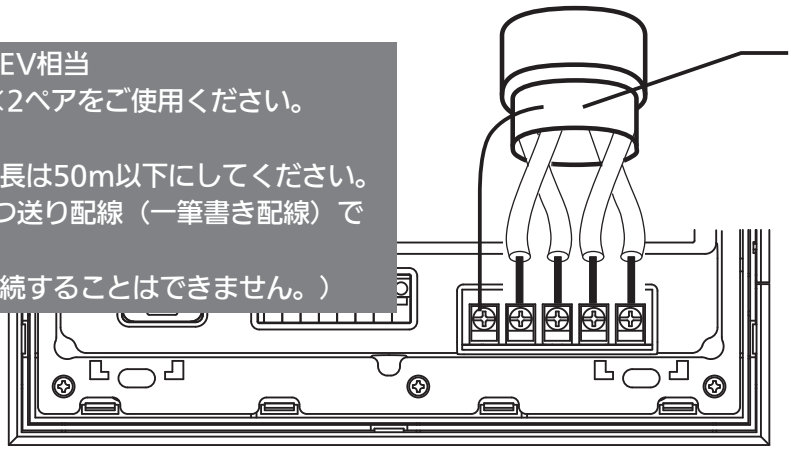
2 電源線と調光信号線を接続する



・電源線はφ1.6またはφ2.0銅単線をご使用ください。
（剥き代12mm）
・調光信号線にはFCPEV相当φ0.9
またはφ1.2×1ペアをご使用ください。
（剥き代10mm）
・調光信号線の1回路の総配線長は100m以下にしてください。

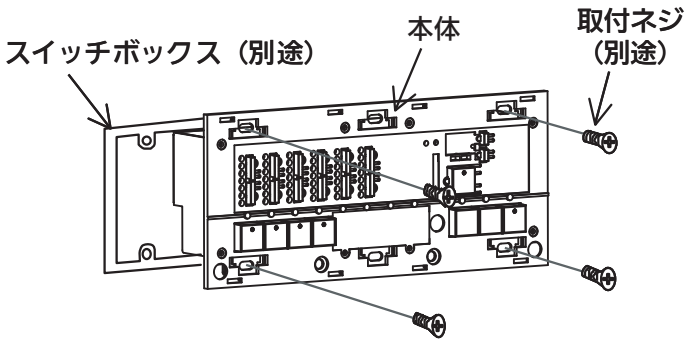
3 伝送信号線を接続する <親器連動や子器を使用する場合に限ります。>

・伝送信号線にはFCPEV相当
φ0.9またはφ1.2×2ペアをご使用ください。
（剥き代10mm）
・伝送信号線の総配線長は50m以下にしてください。
・伝送信号線は1台づつ送り配線（一筆書き配線）で接続してください。
（途中で分岐して接続することはできません。）



4 本体を取付ける

本体をM4ネジ（別途）でスイッチボックスに取付けます。

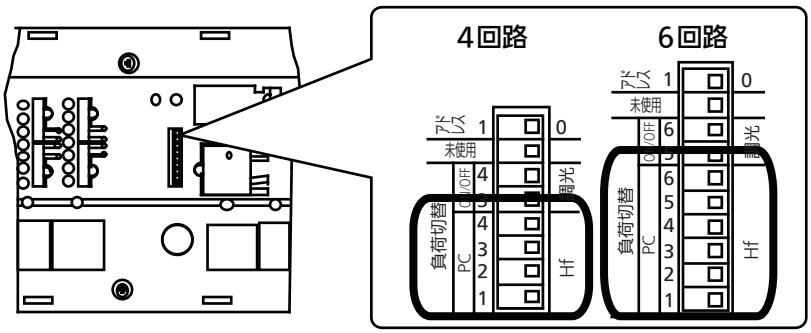


・壁材にメタルラス、ワイヤラスなど金属が含まれる場合はその金属部に触れないように施工してください。
・電源線と調光信号線、伝送信号線は必要に応じて絶縁セパレータ（別売WV2450）などで堅ろうな　隔壁を設けて絶縁してください。
・本器が歪む可能性があるので、取付ネジは必要以上に強く締付けないでください。

5 負荷切替スイッチを設定する

●Hf/PCを設定する

本器の負荷切替スイッチを接続する照明器具に合わせて正しく設定してください。
「適合負荷とシステム構成」（P.3）に各器具の設定を記載していますので参照してください。
（工場出荷時には全てHfに設定されています。）

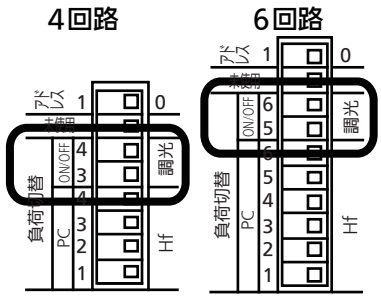


※負荷切替スイッチはプレートを外した左図の位置にあります。
設定の際は細いマイナスドライバーなどで設定してください。

●ON/OFFを設定する

4回路タイプは3・4回路、6回路タイプは5・6回路を「ON/OFF」で使用することができます。
「ON/OFF」にするには右図のスイッチ部をON/OFFに変更してください。
（工場出荷時は「調光」に設定されています。）

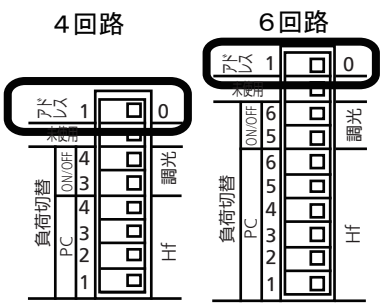
※非調光器具を使用される場合は必ず信号変換インターフェース・ON/OFF用と組合せてください。
※「調光」で信号変換インターフェース・ON/OFF用を使用した場合調光最下限時でOFF、それ以外はON状態となります。



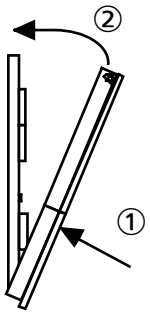
6 親器アドレススイッチを設定する＜親器連動する場合に限ります。＞

アドレススイッチは一方の親器は「0」、もう一方の親器は「1」として両者で被らないように設定してください。

※親器が一台の場合は、アドレススイッチは必ず「0」にしてください。



7 カバーを取付ける



・カバーは下側から位置をあわせて取り付けてください。
①プレートの下部を先にはめ込む
（シーン選択ボタンをプレート穴に入れる）
②プレート全体を押さえてはめ込む
（特に、フェーダーボタン部は化粧カバーと挟まり、
ボタンが押せなくなる場合がありますので、
位置あわせに気をつけてください。）

教えて！Q&A

Q1 接続台数が問題ないか容易に計算できませんか？

●全回路に接続される各器具を下記の計算式で計算し、36以下ならば問題ありません。
（断熱施工時は25になります。）

（親器と直接接続する照明器具台数）＋（信号変換インターフェース・アレンジ調色用の接続台数）×4＋（他信号変換インターフェース、明るさセンサーの接続台数）×2 ≦ 36(25)

※起動方式EDHは1台あたり負荷2台として計算してください。

Q2 回路数は、最大いくらまで増やせますか？

●親器連動で6回路を2台接続し、12回路が最大になります。
パーティション子器を用いた場合、シーン連動動作のみになりますが6回路×2台×4エリアとなり48回路が最大となります。

Q3 調光信号線の配線長を延ばすことはできますか？

●信号変換インターフェース・信号線式LED用を接続することにより、最大200mまで延長できます。

Q4 リモコンの届かない場所からリモコン操作するにはどうしたらいいですか？

●リモコンの届く場所にシーン選択子器を設置してください。
（シーン選択子器はリモコンを受信することができます。）

故障かな？と思ったら

現象	考えられる原因	処置
本体のLEDが点灯しない	電源が入っていない。	電源を投入してください。
	電源線が正常に接続されていない。	電源線を再度結線しなおしてください。
	電源線を間違って調色信号端子または伝送信号端子に接続して電源を入れた。	誤接続により本器が壊れます。交換してください。
OFF/ONボタンが点滅する	接続されている負荷が容量を超えている。	接続台数を減らしてください。若しくはインターフェースで増幅してください。
	調光信号線が短絡している。	配線を見直してください。
調光ボタンを操作してもあかりが変化しない	調光信号線が接続されていない。	配線を見直してください。
調光ボタンを操作すると別回路のあかりが変化する。	調光信号線の接続が間違っている。	配線を見直してください。
親器が連動しない。	親器のアドレスが設定されていない。	親器のアドレススイッチを正しく設定してください。
子器が動作しない。	親器のアドレスが間違っている。	親器のアドレスを「0」にしてください。

■リサイクル　本器を廃棄する場合は、法に基づいて適切に処理してください。

パナソニック エレクトリックワークス株式会社　〒571-8686 大阪府門真市門真1048
お問い合わせ先　照明器具・ランプ商品ご相談窓口　https://sumai.panasonic.jp/support/
0120-187-441（フリーダイヤル）【受付時間】月～土/9:00～18:00（祝日・三が日を除く）※携帯電話からもご利用になれます。
0120-872-460(FAX)

NQ28841K-S
© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2016-2026
K1116-70426